

キャリア教育全体計画 定時制

1 目 標

○ 自立した社会人として、自らの人生を切り開くことのできる人材の育成。

2 現状・課題

本校生徒は入学時点で、何らかの挫折を経験している者が多い。高校生活をきっかけにこれまでの人生のリセットとし、4年間の中で工業を通じ身につけたことを軸に自己肯定力を高め、自らの力でリスタートできる力を身につけさせる。

3 つけたい力

- a 自己のあり方や生き方を自ら考えて選択し、それらを実現するためのキャリアプランを立てる力。
- b さまざまな人の考え方や立場を理解し、尊重して、互いに協力し支え合える人間関係を形成する力。
- c 卒業後の進路を考え、選択し、それを実現するための学習、技能習得、資格取得などに取り組む力。
- d 専門学科の学びや就業体験から、自己の職業適性、能力の課題を把握し、高めていく力。

4 内 容

指導項目	指導方針〈対応する項目〉
①自己の在り方、生き方を考え、社会参画の意識を醸成する	ア 学校生活、社会生活全体をキャリア教育の学びの場であることを意識させる。
②仕事や社会で必要となる力(基礎的・汎用的能力)を育む	イ 基本的生活習慣の確立(あいさつの励行)、面談による学校生活の振り返りを通して生徒同士、あるいは生徒と教員がコミュニケーションをとりあい、豊かな人間関係を築けるようにする。〈①②〉
③様々な学習や体験を通して勤労観、職業観の形成を促す	ウ 所属学科の特性、学校で学んでいることと社会のつながりを意識させ、工業系の専門職の多様性、必要性を認識する。〈①③〉
④卒業後の進路を選択し、職業を通してどう社会と関わり、どう生きたいのかを構想し続ける力を育む	エ 社会や世界のさまざまな現実や課題が自己の生活に結びついていることを学び、自己の生き方について考えさせる。〈①④〉 オ 基礎的知識、技能の習得、工業系の資格の取得を促し、自信を持って、進路を選択し、切り開いていく意欲を持たせる。〈②④〉

指導場面等	指導計画・キャリア教育の視点等〈実施学年〉
教科の授業	・工業系専門学科を学ぶために必要な、読むこと、書くこと、計算することの基本的な学力をつけるために、中学校までの学習内容の学び直しを行い、学習習慣をつける。〈1, 2年〉 ・ICTなどを活用し、自己の日常生活と教科書の内容を関連づける力を養う。〈1～4年〉
総合的な探究の時間	・「課題研究」への代替により、自分の興味、関心をもった事柄についてテーマを設定し、計画立案、調査、研究、製作、評価を行う。〈4年〉 ・課題研究発表を通して達成感を持たせる。〈4年〉
特別活動	・基本的生活習慣確立のための指導。〈1～4年〉 ・就業体験のための就職指導。〈4年〉 ・職業適性検査等で職業適性を知る。〈3年〉 ・さまざまな経験を生活体験発表文に表現し、自己を見つめる。〈1～4年〉
校外の体験活動 (就業体験活動等)	・勤労観、職業観の形成のための就業体験(ボランティア活動を含む)〈1, 2, 3, 4年〉 ・専門学校、大学等のオープンキャンパス、公開講座等への参加〈3, 4年〉
地域や産業界等との連携	・勤労観、職業観の形成のための就業体験(ボランティア活動を含む)〈1, 2, 3, 4年〉 ・専門学校、大学等のオープンキャンパス、公開講座等への参加〈3, 4年〉 ・若年者地域連携事業推進センターとの連携〈4年〉 ・校友会活動などを通して地域との交流を図る〈4年〉
評価	・学年、専門学科と連携しながらキャリア教育の取り組みを評価し次年度に改善を反映。 ・県教委の実施する「生徒意識調査」の活用。
中学校との連携 (指導の継続性)	・高校入学までのキャリアパスポートを活用したキャリア形成の振り返り(入学時) ・学校説明会、公開授業、中学生体験入学を利用し高校のキャリア教育を説明。

校内の推進体制	・キャリア教育担当者と各学年会、専門学科が緊密に連携。
キャリア・パスポートの取組	中学から引き継いだキャリアパスポートを引継ぎ、生活発表体験会や課題研究発表会などの発表の場を一つの区切りとし自らの取組をまとめさせる。製作をゴールとせず、改善まで見据えたPDCAを回していくことで、自己のキャリアを積み上げていく力を身につけさせる。

5 学年別指導計画

	1 年	2 年
目 標	○基本的な生活習慣の確立。 ○学びへの積極的な姿勢と基本的な学力を身につける ○就業体験への準備。	○自己理解、自己管理能力の育成。 ○就業体験を通して、企業、職場を実体験する。
主 な 取 組	○校内規律を守る姿勢、授業態度、実習授業に臨む態度等工業高校生としての自覚を促す。 ○長エピソードの授業で、工業系専門学科を学ぶベースとなる「読む、書く、計算する」の基本学力をつける。 ○学校に登校するまでの時間を、学習や社会体験、就業体験など有効に過ごすよう助言し、学業に影響のない範囲での就業を促す。	○社会の規範を守るモラルを自覚的に涵養し、豊かな人間関係を作る姿勢を育成する。 ○就業体験を通して、自己の職業適性を考える。 ○専門教科の学びを各種検定、資格試験等に結びつけて、目的意識を持つようにする。
評 価	・生徒意識調査(県教委)、面接 ・教員(授業)評価、学校評価	・生徒意識調査(県教委)、面接 ・教員(授業)評価、学校評価

	3 年	4 年
目 標	○人間関係、組織形成力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成	○進路希望実現のために実践力を養成する。 ○社会人、職業人としての知識、教養を身につける。
主 な 取 組	○校友会の中心となり、活動の企画運営、組織作りを行う。 ○専門教科の学びを各種検定、資格試験等に結びつけて、合格できるよう努力する。 ○さまざまな経験を生活発表文に表現し、発表する。	○職業、企業の特徴を調べて、自己の就職希望先を具体化させ、試験への準備に取り組む。 ○将来の希望職業に結びつく上級学校を調べて、試験への準備に取り組む。
評 価	・生徒意識調査(県教委)、面接 ・教員(授業)評価、学校評価	・生徒意識調査(県教委)、面接 ・教員(授業)評価、学校評価

年間指導計画と各取組の関連

	教 科	総合的な探究の時間	特 別 活 動	その他(面接・評価等)
1 年	4 シラバスの説明 授業を受ける基本姿勢、実習授業の服装、態度等安全教育、 教養、長工ベーシックで読み書き、計算の学び直し		高校生活オリエンテーション 就業体験、事前指導 就業体験(希望者)	個人面接、三者懇談
	7 夏休			
	9			授業評価
	12		北信定通生活体験発表大会への参加 学校開放への参加	個人指導、面談
	1 春休		職業レディネステストで自己の職業適性を考える	生徒意識調査(県教委)
	3			学校評価・授業評価
2 年	4 専門学科による資格、検定への取り組み			個人面接、三者懇談 職場訪問
	7 夏休		校内生活体験発表大会への参加	
	9			授業評価
	12		北信定通生活体験発表大会への参加 → 進路希望調査(1) → 学校開放への参加	個人指導、面談
	1 春休			生徒意識調査(県教委)
	3			学校評価・授業評価
3 年	4			個人面接、三者懇談 職場訪問
	7 夏休		校内生活体験発表会で発表	
	9		北信定通生活体験発表大会への参加 校友会活動の中心を担う 学校開放での学習発表	授業評価 個人指導、面談
	12		進路希望調査(2) 職業適性検査	生徒意識調査(県教委)
	1 春休			学校評価・授業評価
	3			
4 年	4 「課題研究」計画立案、調査、研究、 製作 生徒会を中心とする地域連携の取組み		進路研究 就職者向けセミナー(校内実施)への参加。進路希望調査(3) → 校内生活体験発表会への参加 企業見学、オープンキャンパス参加	三者面談で進路希望を確認 就職、進学指導
	7			
	夏休			
	9		北信定通生活体験発表大会への参加	授業評価
	12			生徒意識調査(県教委)
	1 3 課題研究発表会			進路状況とりまとめ 学校評価・授業評価